



むさしのくにあさくきのりせいずだいにっぼんがふさんずえ
 「武蔵国浅草海苔製図」大日本物産図會明治10(1877)年 三代歌川広重



のりとざるい
 海苔採りの用具



のりきざほうちようまいた
 海苔を刻む庖丁と俎



たげたふぼう
 ヒビ建ての下駄と振り棒



のりあみああばりめいた
 海苔網を編む編針と目板



のりながだい
 海苔つけ流し台

くにしていじゅうようゆうけいみんぞくぶんかざい
 (国指定・重要有形民俗文化財)



利用案内

- ◆入館料: 無料
- ◆開館時間: 午前9時～午後5時(6月～8月は午後7時まで)
- ◆休館日: 第3月曜日(祝日の場合は、翌日)
 年末年始(12月29日～1月3日)

交通案内

- ◆京急平和島駅から徒歩15分
- ◆JR大森駅から平和島循環バスで平和島五丁目下車徒歩3分
- ◆東京モノレール流通センター駅から徒歩15分
- ◆駐車場 大森ふるさとの浜辺公園駐車場30分100円



大森 海苔のふるさと館

〒143-0005 東京都大田区平和の森公園2番2号
 電話: 03-5471-0333 FAX: 03-5471-0347
<https://www.norimuseum.com/>



大森 Omori Nori Museum 海苔のふるさと館



の海苔のふるさと館ようこそ!!

大田区の花は“海苔のふるさと”です。

海苔づくりは今から300年ほど前、江戸時代の享保(1716~36年)のころに始まったといわれています。品川から大森周辺の海辺に“ひび”とよばれる粗朶木を建て、その枝に育つ海苔を摘み取りました。とくに浅瀬の広がる大森周辺は大きな産地として発展し、江戸時代の終わりごろ、ここから海苔づくりは各地へと伝わり始めました。

明治以降は、各地で海苔づくりが行なわれるようになりましたが、大田区沿岸の海苔は質、量とも全国に誇り“本場乾海苔”と称賛されてきました。残念なことは東京都沿岸部の埋立て計画に於けるため、昭和37年(1962年)12月に生産中止を決定し、翌38年春にその歴史を閉じたことです。しかし、江戸時代から培われてきた伝統は、生産が途絶えても海苔の流通業の中に生きています。大森周辺は海苔問屋が多く、現在も海苔流通網の重要な拠点の一つとなっています。

海苔づくりの伝統文化を伝えます。

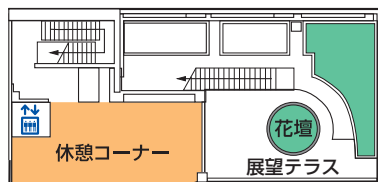
大田区の保存する海苔資料は、大森海苔漁業資料保存会(昭和39年~42年)の収集品に、区立郷土博物館が収集を加え、千点以上のコレクションとなっています。その内881点が「大森および周辺地域の海苔生産用具」の名称で国の重要有形民俗文化財に指定され、海苔の歴史を伝える貴重な文化遺産となっています。

「大森 海苔のふるさと館」は、その文化財を展示紹介すると同時に、海苔づくりを支えてきた伝統の手わざを体験する施設として平成20年4月に開館しました。

先人の知恵や歴史を学ぶ体験学習に加え、隣接する浜辺公園の水辺の生物観察など、季節ごとに企画しています。ぜひ、ご参加ください。

3階 休憩コーナー・展望テラス

休憩コーナーから、大森ふるさとの浜辺公園を一望できます。展望テラスには花壇があり、季節の花とさわやかな風を楽しむことができます。



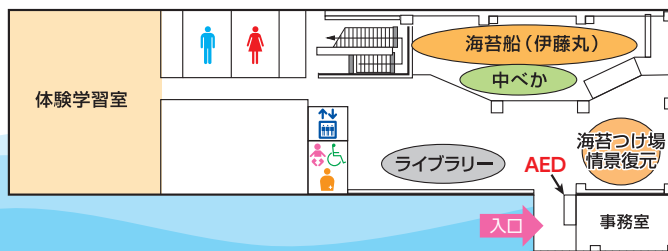
2階 展示室・講座室

国の重要有形民俗文化財に指定されている海苔生産用具を展示しています。海苔の歴史の映像「大田海苔劇場」、海苔下駄の体験コーナーなどもあります。企画展コーナーでは年に数回の企画展を開催しています。



1階 展示室・ライブラリー・体験学習室

昭和33年に造船された海苔船(全長13m)が、海苔づくりの盛んだった時代へみなさまをご案内します。また、海苔つけ場を復元し、当時の作業の様子を分かりやすく展示しています。ライブラリーでは、海苔に関する情報を本やパソコンを使って調べることができます。



▲3階花壇



▲海苔づくりの道具



▲ペーパークラフト「ベカブネ」つくり



▲浜辺の生き物探検隊



▲海苔下駄の体験コーナー



▲まち歩き



▲海苔づくり



▼大田区に唯一残る海苔船(伊藤丸)

海苔づくりの手わざを学んだり、海の自然に親しんだり、季節に合わせた体験ができます。何度来ても新しい発見がある博物館です。